

外 国 語

1 学習指導と評価の工夫・改善

学力については、知識の量でのみとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的、基本的な内容を確実に身につけることはもとより、それにとどまることなく、自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などの「確かな学力」がはぐくまれているかどうかによってとらえる必要がある。

したがって、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価（絶対評価）を一層重視し、観点別学習状況の評価を基本として、生徒の学習の到達度を適切に評価していくことが重要となる。

各学校においては、科目の目標、内容及び指導計画に基づいて、単元の中での具体的な評価規準を設定するとともに、それをどのような評価方法により評価するのかを具体的に示すなど、単元ごとに評価計画を作成することが大切である。

2 評価方法の改善・充実

(1) 評価計画の作成

ア 作成上の留意点

- 各学校においては、各教科の目標、各科目の目標及び内容と自校における科目の目標、内容及び指導計画などに基づいて単元（題材）ごとに観点別の評価規準を設定する。
- 評価規準は、無理なく評価でき、後の指導に生かすことができるようなものとする。
- 評価の信頼性を高めるために複数回の評価の機会を設定する。
- 評価を行う場面としては、学習後のみならず、学習の前や学習の過程なども考慮する。
- 評価を行う時期としては、学期末や学年末だけではなく、目的に応じ、単元ごと、時間ごとに行う。
- 具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのほか、観察、面接、ワークシート、発表などを用い、その選択や組合せを工夫して行う。

イ 評価計画表の例

科目名 英語 I 単元名 Lesson 1 The Internet Society

科目名	英語 I																									
単元名	The Internet Society																									
単元の目標	(1) インターネットの利便性と活用上の留意点などについての記述を正しく読み取る。 (2) インターネットについてのニュースなどを聞いて、内容を理解する。 (3) ペアワークにおいて、自分のインターネット活用状況などを積極的に話す。 (4) インターネットの活用について自分の意見を英語で発表したり、英語でメールを作成する。 (5) 語彙を増やすとともにS+V、S+V+C、S+V+O、S+V+O+O、S+V+O+Cの文の仕組みを理解する。																									
評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解																						
内容のまとめ(学習活動)ごとの評価規準	「話すこと」「発表すること」の言語活動に積極的に取り組んでいる。(話すこと)	日常的话题について、得た情報や自分の考えを英語で書くことができる。(書くこと) 日常的话题について、場面や目的に応じて話すことができる。(話すこと)	日常的话题についての英語を読んで、情報や考えなど相手の伝えようとするを正確に理解することができる。(読むこと) 日常的话题についての英語を聞いて、情報や考えなど相手の伝えようとするを正確に理解することができる。(聞くこと)	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。																						
単元における具体的評価規準	(言語活動への取組) ① ペアワークや発表において英語で積極的に話している。(話すこと)	(正確な筆記) ① e-mailなどで伝えたい情報を正確に書くことができる (書くこと) (適切な発話) ② パソコンで普段自分が行っていることを適切に話したり、意見発表することができる。(話すこと)	(正確な読み取り) ① 本文内容をパラグラフごとに読みとり、ワークシートに記入することができる。(読むこと) (適切な聞き取り) ② ニュースを聞いて、TFクイズに適切に答えることができる。(聞くこと)	(言語についての知識) ① 主語、目的語など文の要素の働きや文中における位置を理解している。 ② 本文中で使われている語句の意味を理解している。																						
[単元の目標及び評価の観点と評価の場面との関係] 「本課の主たる目標」を、それぞれ評価できる観点と評価規準に当てはめる。 単元の目標(1) 「インターネットの～について記述を読み取る」(読むこと)では「理解の能力」の観点で評価する。 「評価方法等」の欄の V 参照 単元の目標(2) 同様に「～を聞いて、内容を理解する」(聞くこと)では「理解の能力」の観点で評価する。 「評価方法等」の欄の IV 参照 単元の目標(3) 同様に「～などを積極的に話す」(話すこと)では「関心・意欲・態度」の観点で評価する。 「評価方法等」の欄の I 参照 単元の目標(4) 同様に「自分の意見を英語で発表する」(話すこと)では、「関心・意欲・態度」及び「表現の能力」の観点で評価する。 「評価方法等」の欄の I 及び II 参照 また、「メール作成において必要な情報を入れて書く」(書くこと)では「表現の能力」の観点で評価する。 「評価方法等」の欄の III 参照 単元の目標(5) 同様に「語彙を増やすとともに、～の文の仕組みを理解する」ことは「知識・理解」の観点で評価する。 「評価方法等」の欄の VI 参照																										
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>観点 内容</th> <th>関心・意欲・態度</th> <th>表現の能力</th> <th>理解の能力</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>聞く</td> <td></td> <td></td> <td>IV</td> <td rowspan="4">VI</td> </tr> <tr> <td>読む</td> <td></td> <td></td> <td>V</td> </tr> <tr> <td>話す</td> <td>I</td> <td>II</td> <td></td> </tr> <tr> <td>書く</td> <td></td> <td>III</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> (I ～VIについて) ては、評価の場面を表す。 </div>					観点 内容	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解	聞く			IV	VI	読む			V	話す	I	II		書く		III	
観点 内容	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解																						
聞く			IV	VI																						
読む			V																							
話す	I	II																								
書く		III																								
パラグラフ番号等	ねらい・学習活動の例	具体的評価規準との関連	評価方法等																							
導入	○本課で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ○インターネットに関するキーワードの確認などを通じて本文内容の読みとりについて期待を高める。 ・warm-up として、コンピュータに関する対話をペアワークで行う。 ・自分がパソコンで行っていることを発表する。 ・コンピュータについて教師 (ALT) からの英語の質問に答える。	関心・意欲・態度の①	方法：活動の観察 I 手順：ペアワークにおいて英語で話しているかどうかを観察する。 判断：英語で話していれば○と評価する 参考資料 1 参照																							
1	○第1パラグラフの内容を理解する。 ・次のリーディングポイントに従ってワークシートに記入する。 (ア) いつからインターネットが一般的になったか (イ) インターネットを使って具体的にどんなことができるか 3点書く。 ○本文を音読する。	理解の能力の①	方法：ワークシートチェック 1 V 手順：リーディングポイントが記載されたワークシートを配付し、答えを記入させる。 判断：(ア)(イ)あわせて4点あるうち、3つ以上読みとれていれば○と評価する。																							

パラグラフ番号等	ねらい・学習活動の例	具体的評価規準との関連	評価方法等
2	<p>○第2パラグラフの内容を理解する。 ・次のリーディングポイントに従ってワークシートに記入する。 (ア) インターネット上のホームページを見るのは誰か(どのような人たちか) (イ) インターネットはなぜ緊急時に役立つのか (ウ) 医者はインターネットをどのように活用するのか</p> <p>○本文を音読する。</p> <p>○本文前半のまとめを行う。</p>	<p>理解の能力の①</p> <p>知識・理解の②</p>	<p>方法：ワークシートチェック2 V 手順：リーディングポイントが記載されたワークシートを配付し、答えを記入させる。 判断：(ア)(イ)(ウ)あわせて3点あるうち、2つ以上読みとれていれば○と評価する。</p> <p>方法：単語の小テスト VI 手順：小テストを配付して行う。 判断：単語及び語句20題で20点満点中、14点以上で○、18点以上で◎と評価する。</p>
3	<p>○第3パラグラフの内容を理解する。 ・次のリーディングポイントに従ってワークシートに記入する。 (ア) インターネットを通じてどんな人と友人になることができるか (イ) インターネットは何をもたらすか</p> <p>○インターネットについてのニュース放送を聞いて、概要を把握し、TFクイズを行う。</p> <p>○本文を音読する。</p>	<p>理解の能力の①</p> <p>理解の能力の②</p>	<p>方法：ワークシートチェック3 V 手順：リーディングポイントが記載されたワークシートを配付し、答えを記入させる。 判断：(ア)(イ)の2とも読みとれていれば○と評価する。</p> <p>方法：TFクイズ IV 手順：ニュースを聞く。必要に応じてメモを取る。解答用紙に記載されている英文が正しければT、間違いならFを記入する。解答用紙を回収する。 判断：5題中3題以上の正解で○と評価する。</p>
4	<p>○第4パラグラフの内容を理解する。 ・次のリーディングポイントに従ってワークシートに記入する。 (ア) インターネットの中で自分を見失う人が増えるのはなぜか (イ) どのようなコミュニケーションが重要であるか (ウ) 多くの人はインターネットの将来はどのようなものと考えているか</p> <p>○本文を音読する。</p> <p>○インターネットの功罪について自分の考えをまとめ、英文にする。 ・本文で述べていることの要点を英語で箇条書きにする。 ・その一つ一つに対して、I agree. かI disagree. のどちらかで書き始め、自分の意見を英語で書く。</p> <p>○インターネットの功罪について、自分の意見を発表する。生徒全員が発表する。</p> <p>○自分の意見を母国に帰国したALTにe-mailを送るという設定で手紙文にまとめる。</p> <p>※可能であれば ○高校生にとってインターネットの使用制限は必要か、必要がないかについて賛成と反対に分かれて、討論会を行う。</p>	<p>理解の能力の①</p> <p>表現の能力の①</p> <p>表現の能力の② 関心・意欲・態度の①</p> <p>表現の能力の①</p>	<p>方法：ワークシートチェック4 V 手順：リーディングポイントが記載されたワークシートを配付し、答えを記入させる。 判断：(ア)(イ)(ウ)あわせて3点あるうち、2つ以上読みとれていれば○と評価する。</p> <p>方法：ワークシートチェック5 III 手順：自分の考えを書いたワークシートを回収する。 判断：3つの「作者の意見」に対する自分の意見が2つ以上「伝わる英語」で書かれていれば○と評価する</p> <p>方法：活動の観察 I及びII 手順：発表の場面において、自分の考えを正確に述べているかを観察する。 評価：内容が正確であれば表現の能力を○と評価する。 自分で作成したメモを見ないで話していれば関心・意欲・態度を◎と評価する。</p> <p>参考資料2参照</p> <p>方法：ワークシートチェック6 III 手順：e-mailを記載したワークシートを回収する。 評価：記述がおおむね正確であれば○と評価する。</p>
文法事項のまとめ	<p>○文の要素について教科書の例文等を用いて理解する。 ・英文中の主語を見つける。 ・英文中の動詞を見つける。 ・英文中の主語を説明する補語を見つける。 ・英文中の目的語を見つける。 ・主語+動詞+間接目的語+直接目的語の文型を理解する。 ・主語+動詞+目的語+補語の文型を理解する。</p>	<p>知識・理解の①</p>	<p>方法：ワークシートチェック7 V 手順：教科書の例文にS、V、O、Cなどと文の要素の記号を付けさせる。 4～5人のグループを作り、自分の考えを述べ合う中で解答を行う。 評価：解答後、同一の例文で小テストを行い、8割以上の正解で○と評価する。</p>

(2) 観点別評価の進め方

ア 考え方

ここでは、インターネットの活用が身近な生活に及ぼす影響や、インターネットをコミュニケーションの手段として活用することの意義などに関する英文の読みとりを通じて、インターネットに関する自分の意見を英語で発表できる力を育成することや英文の要素となる、主語、動詞、目的語、補語などの文の仕組みを理解することなどを目標としているが、観点別評価を進めるに当たっては、まずその目標達成に向けて「関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「知識・理解」の4観点ごとに学習活動の具体の評価規準を設定する必要がある。

具体の評価規準は「おおむね満足できると判断される」状況（B）を示すものとして設定しており、この状況を実現すれば（B）となり、そうならなければ「努力を要すると判断される」状況（C）となる。

また、具体の評価規準に照らして「十分に満足できると判断される」状況（A）の例及び「努力を要すると判断される」状況（C）の生徒への指導の手だてについては以下のように設定することができる。

(ア) 関心・意欲・態度について

十分満足できると判断される状況(A)	努力を要すると判断される状況(C)と評価される生徒への指導の手だて
ペアワークや発表において、英語で常に積極的に話していることが認められる場合 (話すこと)	話しやすい雰囲気を作ったり、定型表現を説明したり、話し方のヒントを与えるなど、個別指導を行う。

(イ) 表現の能力について

十分満足できると判断される状況(A)	努力を要すると判断される状況(C)と評価される生徒への指導の手だて
身近なことについて、e-mailなどで伝えたい情報を常に正確に書くことができる認められる場合 (書くこと)	英文の作成方法等について、補足説明するなど、必要な個別指導を行う。
インターネットの功罪について、常に場面や目的に応じて話すことができる認められる場合 (話すこと)	英語で発表する英文について、補足説明するなど、必要な個別指導を行う。

(ウ) 理解の能力について

十分満足できると判断される状況(A)	努力を要すると判断される状況(C)と評価される生徒への指導の手だて
インターネットの活用に関する英語を読んで、常に書き手の伝えようとすることを正確に理解することができるものと認められる場合 (読むこと)	必要な語彙や文法事項等について、補足説明するなど、必要な個別指導を行う。
インターネットの活用に関するニュースなどの英語を聞いて、常に情報や考えなど相手の伝えようとすることを正確に聞き取ることができるものと認められる場合 (聞くこと)	聞き取りのポイントなどについて、補足説明するなど、必要な個別指導を行う。

(エ) 知識・理解について

十分満足できると判断される状況(A)	努力を要すると判断される状況(C)と評価される生徒への指導の手だて
主語や目的語など文の要素の働きや文中における位置の理解が確実に定着していると認められる場合	更に説明を補足するなど、必要な個別指導を行う。

イ 評価方法の具体例

観点別学習状況の評価結果や特記事項などの補助簿への蓄積例

出席番号	生徒氏名	評価方法	第1課 Internet Age										備考	
			ペアワーク	ワークシート 1	ワークシート 2	単語のテスト	ワークシート 3	T Fクイズ	ワークシート 4	意見発表表	ワークシート 5	ワークシート 6		ワークシート 7
			実施日	4/15	4/16	4/19	4/19	4/22	4/22	4/26	4/30	4/30		5/6
1	▽▽▽▽	関心・意欲・態度	○ ← 参考資料1							◎ ← 参考資料2				
		表現の能力	○							○	○			
		理解の能力		○	.		○	○	○					
		知識・理解					◎							○
2	□□□□	関心・意欲・態度	.								○			
		表現の能力	.							.	○	○		
		理解の能力		○	○		欠	.	○					
		知識・理解					○							.

(注) ○は「おおむね満足できると判断される」状況、◎は「十分満足できると判断される」状況を表す。

(3) 観点別評価の総括

ア 本單元における「関心・意欲・態度」の総括の例

補助簿等に蓄積された評価をもとに、例を次に示す。

- (1) 具体的評価規準：「ペアワークや発表の場面において英語で積極的に話している。」
- (2) 評価方法：「ペアワーク及び発表の観察」
- (3) 評価の手順 ①第1時間目に観察する。②第8時間目に観察する。
- (4) 評価の決定
第1時間目においては、ペアになって英語で話しているかどうかを観察し、話していれば「○」、話していなければ「・」とする。
第8時間目においては、メモを見ないで明瞭に意見を述べていれば「◎」と評価し、時折メモに目をやるが、見ないように努めて発表した場合は「○」とする。このとき、◎を○2つと換算する。

【留意点】

- ・本課では異なる視点で2回評価し、○が最大3つ与えられる評価を行う。
- ・次のような場合分けをした時、それぞれの「安定性」により、A、B、Cと評価する。
- ・ここでは、○が3つと評価される場合「安定的に」発話していると認められるので、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。
- ・○が2つの場合はおおむね満足できると判断される」状況（B）、2つに満たない場合は、「努力を要すると判断される」状況（C）と評価する。
- ・評価の回数を増やすことで、一層正確な評価を行うことができる。

例 評価場面（機会）が2回で、○が最大3つ与えられる場合のモデル（○の数と評価の関係）

○の数	○が3つ	○が2つ	○が一つ	○なし
総括された評価	A	B	C	C

イ 考え方

(ア) 単元・学期末等の総括の仕方

まず最初に、評価の観点ごとに設定された具体的評価規準に照らして、A、B、Cの評価を行う。本事例の「関心・意欲・態度」のように一つの観点に対して一つの具体的評価規準を設定して評価する場合は、その結果が評価の観点の総括となる。

また、「表現の能力」のように一つの観点に二つ以上の具体的評価規準を設定して評価する場合は「AAB」なら「A」というように数の多い方で総括する。

なお、「AB」や「BC」のような場合については、良い方の評価を取り、それぞれ「A」「B」とするなど、各学校が生徒の実態に応じて事前に決定した考え方により総括する。

また、具体的評価規準に照らして評価結果を総括するに当たっては、その課の目標や評価した内容などに応じて適宜重み付けをして総括することもできる。

(イ) 評定への総括の留意点

生徒の学習状況を観点別に分析的に評価し、その結果を評定に総括する方法として、学年末に総括した観点別学習状況の評価結果を総括し、評定する場合のほか、学期末における観点別学習状況の評価結果から各学期末の評価を行い、その結果を総括し、評定とする場合などが考えられる。各学校においては、自校における指導の重点や評価方法等を踏まえ、評定への総括に関して、考え方や手順等について共通理解を図ることが大切である。

参考資料 1

ペアワークの際の指導計画と評価シートの例

(評価計画表における「パラグラフ番号等」の「導入」の I 参照)

指導計画

段 階	○ねらい □主な学習活動 ■発展学習	生徒の活動
導 入	<p>○インターネットに関するキーワードなどの確認を通じて、本文内容の読みとり等について意欲を持たせる。 ○観察により生徒の「関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>□ テープリスニング (ALTとJTEによるモデル) a: When did you learn about a computer? b: <u>Two years ago.</u> a: What would you like to do with a computer? b: I'd like to <u>play computer games.</u></p> <p>□ 関連する語句のチェック compose computer music, draw computer graphics, make my own address book, communicate with other people around the world by e-mail, read homepages</p> <p>□ a と b の会話をペアワークで行う。□の部分を変えて行う。</p> <p>■ a,b,a,b に続いて a は b の返答を受け、より具体的な質問をする。b はそれに答える。 例 a: What kind of games do you like to play? b: I like Role Playing Games.</p>	<p>・聞く。 ・話されている内容を理解する。</p> <p>・語句の意味を理解する。 ・発音できるようにする。</p> <p>・関連する語句を活用する。 ・ノート等を見ないで相手を見て英語で話す。 ・独自の語句を使って返答する。</p> <p>・できる限り取り組む。</p>

座席表を用いた「関心・意欲・態度」評価シートの例

	<p>4月17日(木)</p> <p>3校時 1年3組 (20名対象)</p> <p>欠席者 No. 2 0 ○○○○</p> <p>Lesson 1</p> <p>特記事項</p>
教 壇	

留意事項

- ・生徒の着席状況を確認する。
- ・ペアを指示する。(生徒に自由に組ませることも可能)
- ・ペアになっている組み合わせを楕円で囲う。
- ・机間指導を行い、活動の様子を複数回観察し、英語でペアワークを行っていれば○と評価する。

参考資料 2

インターネットの功罪について意見発表の際の指導計画と評価シート

(評価計画表の「パラグラフ番号等」「4」のⅠ及びⅡ参照)

指導計画

段 階	○ねらい □主な学習活動 ■発展学習	生徒の活動
第3パラグラフから第4パラグラフ	<p>○インターネットの功罪等について生徒の考えを発表させる。 ○観察により生徒の「表現の能力」「関心・意欲・態度」を評価する。 (1)～(3)の Key Sentence は教師が示す。 →は生徒の考えた英文の例</p> <p>□(1) In the world of the Internet, everyone is equal. → I agree. I am friends with famous writers, artists, scholars and scientists. → I disagree. People who don't have computers can not make use of the Internet.</p> <p>□(2) The Internet can bring about big change in your view of the world. → I agree. People around the world can exchange their ideas freely on the Internet. → I disagree. Information from the Internet is sometimes false, so I would rather trust newspapers and authorized books.</p> <p>□(3) The Internet is nothing more than a tool for communicating and getting information. → I agree. The Internet can seem pointless when not used with a specific aim. → I disagree. I think the Internet can be a world in itself, more than just a tool. It depends on how we use it</p> <p>■(4) 意見の対象となる英文を本文中から探し出し、それについて意見を述べる。</p> <p>○(1)～(3)などから一つ取り上げて、英語で意見発表を行う。 ひとり30秒以内を想定する。</p>	<p>・日本語で考える。 ・和英辞典などを用いて英文を作成する。</p> <p>・ This textbook says ～ .で始めて意見を言う。～の部分は左の(1)～(3)などのうちの一つである。</p>

発表における「表現の能力」及び「関心・意欲・態度」評価シートの例

4月30日(金) 2校時 1年3組							
出席番号	表 現	意欲等	特記事項	出席番号	表 現	意欲等	特記事項
1	○	◎	発想がよい	21	・	○	
2	・	○		22	○	◎	
3	・	・	準備不足	23			欠席
4	○	○		24	○	○	
5	○	◎		25	・	○	
6	○	○		26	・	・	個別指導必要
7	・	○		27	○	○	

留意事項

- ・意欲等は「関心・意欲・態度」の評価である。◎については総括の際には○2つと換算する。
- ・それぞれの発表について、必ず口頭で"Very good.", "Good job."などの言葉を添える。
- ・ALTの協力が得られる場合には、ALTにも評価シートを渡し、評価をしてもらい、参考とする。